

昭和31年、船岡町と槻木町が合併して柴田町が誕生。  
町名は、古書にも見られ古くからの郡名であり、  
旧藩政時代に居城を構え、伊達家重臣で著名だった柴田氏に由来する。  
町は産業の振興を強力に推進しながら着実に発展し続け、  
時代の大きな流れのなかで、常に町民主体のまちづくりを進めた。  
いま、町の誕生から50年という大きな節目を迎え、  
これまで歩んできた町の歴史を辿りながら、  
あらたなる柴田町の未来へ向け、あゆみ始めよう。

## 町制50年のあゆみ

# なにか

昭和10年3月の船岡大橋竣工式  
(大和田竹郎氏所蔵)

通史 *The History of Shibata Town*

# でなかにの流

【川の記憶】

鷺の話

文/日下龍生

農業の使用がひかえられ、コサギやダイサギ(写真)などのシラサギが水田地帯に見られるようになった



昭和五十五年の初夏の頃、船岡の恵林寺の裏山の杉林で夜な夜な不気味な鳥の音がするようになりました。五位鷺が集団移住してきたのです。小魚を餌にする鷺の糞はカルシウム分が多く、集団営巣した場合、しばしば林を枯死させると聞き心配しましたが、幸い移住していきました。今、稀に名取用水の堰堤に見ることが出来ます。その堰堤の魚道には国内最大の鷺、青鷺がミナクチャブリというこの地方の呼称さながらの姿で見られます。



昭和31年、建設中の槻木中学校体育館



昭和32年7月、豪雨のため五間堀堰堤が決壊



昭和33年3月、柴田小学校創立



昭和35年当時の白石川に架かっていた木造の船岡大橋

通史 The History of Shibata Town 大らかな流れのなかで

昭和三十五年 一月 ◆旧第一海軍火薬廠跡地の自衛隊使用が決定。 三月 ◆船岡小学校中名生分校の校舎が完成。 四月 ◆二代目柴田町長に平間新午郎氏が就任。 五月 ◆林道「雷いかつち」線が完成/陸上自衛隊第一〇三建設大隊が愛知県豊川市から移駐。米軍が去り活気を失っていた商店街が、再び活気を取り戻す。

Epoch-making...① April 1st, 1956

自治の確立を図るとともに、産業の振興を強力に推進し、商工業の発展と工場の誘致を図り、もって住民の福祉を増進し健全かつ平和にして民主的な文化新町の建設を図るもの」と定め、新町名を「柴田町」と命名。合併促進協議会がこの協定に合意したのを受け、昭和三十一年三月二十二日、船岡・槻木両町は各町議会において合併を議決。同日、合併調印式が行われ、そして四月一日、新しく「柴田町」が誕生しました。

昭和31年4月1日、人口24,579人、世帯数4,456戸の、新「柴田町」が誕生した。

昭和31年

町村合併促進法の公布を受け、県は新町建設の動きを本格化。船岡・槻木両町による合併促進協議会が設立され審議を進め、昭和31年3月、両町による合併調印式が行われた。



昭和二十八年九月、国による町村合併促進法が公布されたのを受け、県は「宮城県町村合併促進基本計画」を作成し、合併促進に向けて動き出しました。県の計画は柴田郡を三ブロックに統合するもので、検討の末、船岡町と槻木町の合併に向けた動きが本格化。両町による合併促進協議会が設立され、柴田倫之助氏を会長に、二六人の委員による審議が進められました。 合併促進協議会は、新町建設の基本方針を、「行財政を強化しながら

船岡町と槻木町が合併し、柴田町が誕生。

Epoch-making...② January 19th, 1960

上自衛隊第一〇三建設大隊が、愛知県豊川市から移駐することとなりました。 さらに昭和三十六年十一月、火薬廠跡地の一部払い下げが認可されたことで、自衛隊に限らずさまざまな跡地活用が可能となり、県工場誘致条例第一号の東北共同化学工業の進出が決定。その後も積極的に企業誘致が推進され、柴田は次第に活気あふれる町へと変わっていきました。



町の活性化を願って昭和33年2月、旧第一海軍火薬廠跡活用促進期成同盟会が発足。官民一体となつてのまちづくりが始まった。

二万人の労働従事者を抱えていた船岡の第一海軍火薬廠が終戦で閉鎖となり、また昭和二十四年からはアメリカ進駐軍の縮小、撤退も開始されたことなどから、当時町は活気を失い、経済も低迷していました。 そこで、町の経済低迷を解消し活性化を図ろうと、昭和三十三年二月十三日、関係市町村による旧第一海軍火薬廠跡地活用促進期成同盟会が発足。同年三月に、アメリカ軍が火薬廠の接収を解除したのを契機に、翌年には、仙台に移駐した陸上自衛隊東北支援軍の再誘致運動が展開されました。この官民一体となった運動が実を結び、昭和三十五年一月十九日、火薬廠跡地を自衛隊が使用することが決定。同年五月八日、陸

第一海軍火薬廠跡地を自衛隊が使用決定。

自衛隊による跡地使用決定に加え、跡地の一部払い下げも認可され、柴田は活気ある町へと変わっていった。

柴田町の出来事 昭和三十一年◎昭和三十五年



昭和34年、上水道事業開始

完成。 十二月 ◆船岡館山公園に高さ八メートルのタワー完成/公民館主催による全戸表札掲示運動を展開/三カ年計画で上水道事業に着手、旧第一海軍火薬廠が使用した館山給水施設を活用。

- 昭和三十一年 三月 ◆町村合併審査委員会が発足/旧槻木町と旧船岡町が合併に調印 四月 ◆町制施行柴田町が誕生/柴田町消防団が発足。 五月 ◆初代町長に柴田倫之助氏が就任。 六月 ◆第一回柴田町議会を開会する。 七月 ◆槻木中学校体育館が完成/水害で三〇町歩の水田が冠水、五間堀改修計画が請願される。 昭和三十二年 二月 ◆米軍から船岡キャンプの一部が日本に返還され、引き続き自衛隊が使用。 四月 ◆県立柴田農林高校の槻木・船岡両分校が統合して、白幡分校が創立。 八月 ◆移動公民館を開設。 昭和三十三年 二月 ◆旧第一海軍火薬廠跡活用促進期成同盟会が発足。船岡弾薬集積所の弾薬の最後の国外搬出作業が行われる。 三月 ◆入間田小学校、葉坂・成田両分校を統合、柴田小学校が創立。 四月 ◆柴田町防犯協会実働隊が発足/陸上自衛隊船岡駐屯地部隊が仙台市苦竹にある北仙台駐屯地に移駐。 六月 ◆米軍が船岡キャンプを全面返還する。 十二月 ◆船岡地区の区画整備事業に着手。 昭和三十四年 一月 ◆仙南地方社会福祉協議会が発足(柴田、伊具、刈田各郡)。 二月 ◆二五〇万年前の旧象の歯が並松地内で発見(ミヨコ象)。 四月 ◆槻木中学校に特殊学級が設置される。 五月 ◆柴田小学校に学校植物園が

【川の記憶】

文/日下龍生

白石川河道の変遷(1)

大正時代に河川が改修されるまで、この田圃は白石川であった



昭和三十六年に撮影された船岡地区の空中写真に、白石川の蛇行の跡と  
思われる地形に気付いたのは、二十年以上も前のことになりました。  
三十一年の空中写真にははつきりと蛇行の跡が見られます。  
現在の河道は大正時代の河川改修によるもの。  
この改修以前の河道の一部は柴田高校前の旧街道に沿って  
今もみることができます。空中写真の蛇行はこの改修以前の河道より  
さらに古い、いわば原・白石川。



昭和36年6月、工場誘致第1号、株式会社特殊コンクリート工法の進出決定



昭和37年3月、婦人防火クラブが発足



昭和38年9月、槻木中学校全焼



昭和39年10月、船岡大橋が開通

通史 The History of Shibata Town

大らかな流れのなかで

- 昭和四十年
  - 四月◆三町立(大河原町、村田町、柴田町)の清掃センターが完成。
  - 七月◆葛岡住宅団地が完成/国鉄槻木〜岩沼間の複線運転を開始。
  - 八月◆町道南光大通り線完成。
  - 九月◆館前地区にライスセンター完成。
  - 十月◆表蔵王国際ゴルフ場オープン。



昭和39年9月、東京オリンピック聖火が町内を通過

Epoch-making...③ August, 1962

きかけてきた陳情活動が実り、経済企画庁は仙南地区を低開発地域に指定。昭和三十九年六月、柴田町はより一層の産業振興を図るため、神明堂地域の土地約二万六〇〇〇坪を工業用地として先行取得するよう、(財)宮城県開発公社に要請しました。これにより造成した神明堂工業団地には、その後さまざまな企業が進出し、今日の柴田町が、宮城県屈指の工業の町として発展する礎となりました。

低開発地域の指定を受け柴田町は工業用地を取得要請し造成。その後、多くの企業の進出が果たされた。

昭和37年

柴田町の工業の活性化を推進するため、2市3町による仙南開発地区指定促進協議会を結成し、仙南地区の低開発地域指定に向けた運動を開始した。



低開発地域の指定により、工業の町・柴田の礎が築かれた。

柴田町では、町の発展を図るため工業の活性化を推進し、早くから県内外からの企業誘致を積極的に進めてきました。昭和三十六年、低開発地域工業開発促進法が成立。これにより、指定適用地域へ進出する企業には、税制面で優遇措置がとられ、企業誘致のうえで有利な条件が加わることから、柴田、村田、大河原、白石、角田の二市三町は、仙南開発地区指定促進協議会を結成し、仙南地区指定に向けた運動を開始しました。昭和三十七年八月、関係機関に働

Epoch-making...④ November, 1963

昭和38年

柴田町は、農業構造改善事業計画樹立町として県内で初のモデル地区に指定。いち早く事業を実施し、町の農業は、近代化農業経営の第一歩を踏み出した。



県内でもいち早く、農業構造改善事業を導入し実施。

昭和三十年代前半の農業は、牛馬や手作業による労力が大部分で機械化もわずか、他産業に比べ低所得であるなど、さまざまな問題を抱えていました。昭和三十六年、農林省は農業基本法を制定し、日本の農業の近代化を進めるため、農業構造改善事業の推進を図りました。宮城県内では、昭和三十七年に二市町がモデル地区の指定を受け、うち仙南地域は角田市と柴田町が指定されました。柴田町はすでに具体的な改善事業計画を樹立し着手していたため、翌三十八年十一月には事業を実施。富上地区水田基盤の整備や上川名ビニールハウス栽培組合が発足されるなど、新生産方式による農業経営の近代化をめざしました。当初のさまざまな試行錯誤や熱心

モデル地区以外にも積極的に助成し、町が率先して事業を導入。柴田町の農業活性化につながった。

柴田町の出来事

昭和三十六年〇昭和四十年

- 昭和三十六年
  - 二月◆仙合〜福島間の国鉄電化工事が完成。
  - 五月◆柴田農林高等学校校定時制白幡分校の校舎が完成。
  - 六月◆工場誘致第一号、株式会社特殊コンクリート工法の進出が決定。
  - 八月◆「広報しばた」が創刊。
  - 九月◆第一回町政を聞く会を開催。
  - 一〇月◆町章が決定。
  - 十一月◆合併五周年記念式典を開催/株式会社東北共同化学工業の進出が決定。
- 昭和三十七年
  - 一月◆農業構造改善事業計画を樹立。
  - 二月◆船岡住宅団地(一本杉)の造成に着手/船岡郵便局が柴田郵便局に改称。
  - 三月◆交通安全都市宣言をし、柴田町交通安全協会が発足/入間田地区に婦人防火クラブが発足。
  - 五月◆国鉄丸森線の起工式。
  - 六月◆第一次水道建設工事が完成。
  - 八月◆低開発地域に指定され、工場誘致に特典が与えられる。
- 昭和三十八年
  - 三月◆船岡小学校プール建設に着手。
  - 六月◆入間田簡易郵便局開局。
  - 七月◆柴田町商工会青年部が発足。
  - 八月◆萩野、大塚地域が、西部区画整理事業により「西住町」となる。
  - 九月◆槻木中学校の校舎全焼。
  - 十一月◆槻木中学校プールが完成/農業構造改善事業に着手/富上地区水田基盤を整備/上川名ビニールハウス栽培組合が発足。
- 昭和三十九年
  - 一月◆都市下水路計画が決定。
  - 二月◆羽山簡易郵便局が開局。
  - 四月◆富沢、葉坂地区に婦人防火クラブが発足。
- 五月◆柴田町老人クラブ連合会が発足。
- 八月◆槻木中学校新校舎完成。
- 九月◆東京オリンピック大会の聖火リレーが町内を通過。
- 十月◆船岡大橋が開通。
- 十二月◆葉坂地区に雷果樹協同組合が発足。

【川の記憶】

文/日下龍生

白石川河道の変遷(2)

写真左下をよく見ると、河道の跡を確認することができる



通称三名生道路に絡みつくように船岡の大地に記された蛇行する白石川。かりに奈良、平安、鎌倉時代当時の白石川であるとすると、水解する謎があります。川の北側(船迫側)には広い平野が開け、多くの人口を抱える空間が確保できます。上野山古墳群、森合・十八津入両横穴墓をあわせると、五〇〇基強を数える墓の存在、船迫の鬼田にある瓦窯と、なぜ頼朝の大軍が船迫に宿営したのか、等々。



昭和41年2月、小・中学校の給食開始



昭和43年4月、国鉄丸森線開通



昭和44年12月、炭釜横穴墓群(四日市場)を発掘



昭和45年、NHK大河ドラマ「縦ノ木は残った」放映

通史 The History of Shibata Town

大らかな流れのなかで

- 四月◆国鉄丸森線開通。横橋駅を開設/柴田児童館が開館。
- 五月◆株式会社山崎製パン仙台工場が操業開始。
- 七月◆林道「雨乞線」が完成。
- 十月◆柴田消防庁舎が完成/十二月に交通事故の救急業務を開始。
- 昭和四十四年
- 二月◆船岡中学校新校舎完成。
- 三月◆三名生児童館が開館/第二浄水場が旧第一海軍火薬庫内高久蔵地内に完成。
- 五月◆旧機木公民館が完成。
- 十月◆果実選果場がライスセンター前に完成。
- 十二月◆柴田町観光協会設立/東北電力仙南変電所が富沢地区に完成/炭釜横穴墓群(四日市場)を発掘。
- 昭和四十五年
- 一月◆高齢年金支給制度を施行/NHK大河ドラマ「縦ノ木は残った」が放映開始。
- 三月◆船岡公園の道路・駐車場・観光資料館・リフトカーが完成。
- 四月◆柴田消防署を建設。
- 六月◆柴田町民体育館、柴田町公民館が完成。
- 十月◆西住児童館が開館/「第二回菊人形まつり」が開幕。

Epoch-making...⑤ April 25th, 1967

頭に、「仙台大学」と決定しました。昭和四十二年一月、文部省から大学設置申請が正式に許可され、同年四月二十五日、仙台大学は仙南初の大学として、第二回入学生五九人を迎えて開学しました。平成七年には、全国初の健康福祉学科を開設。地域社会と世界に向けた「文化とスポーツ情報の発信基地」としての役割を担い、人間尊重の時代に不可欠な健康福祉とスポーツ学の先駆的指導者を養成しています。

「健全なる精神は、健全なる身体にやどる」を建学の精神として開校。全国初の健康福祉学科を開設。



昭和42年

東北、北海道で初めての体育学科を有する4年生大学、また仙南初の大学校として、昭和42年4月25日、「仙台大学」が開校した。

仙台大学が旧陸上自衛隊船岡駐屯地跡に開校。

昭和三十八年、陸上自衛隊船岡駐屯地が現在地に移駐し、当時の平間町長は、空地になった土地・建物を活用し、文教施設設置を推進しました。当初は高校設置を検討しましたが、県側の指導で、歴史と伝統を誇る学校法人朴沢学園が大学誘致先を探していると知り、早速交渉。学校側も跡地を適地と判断し、また町の臨時議会でも、四年生大学設置の案件が満場一致で議決されました。設置する大学は、東北、北海道で初の体育学科を有する四年生大学。大学名は種々検討された結果、当初候補にされた「仙台体育大学」から、将来の大学の拡充と発展を念

Epoch-making...⑥ April 1st, 1968

労働者の確保や、全線開通後の関東経済圏との連携強化など、その効果が大きい期待されていた。当日は機木駅でテープが切られ、開通を祝う祝賀列車が丸森駅に向けて出発。沿線には、満面の笑顔で手を振り開通を喜ぶ町民が続きました。



昭和二十八年に建設予定線になってから、急ピッチで建設が進められた国鉄丸森線。沿線住民の喜びの笑顔のなか、祝賀列車が発車した。昭和四十三年四月一日、沿線住民が待望していた国鉄丸森線の機木〜丸森間(二七・四キロメートル)が開通しました。丸森線は、昭和二十八年に建設予定線になり、同三十二年に調査線、三十六年には建設工線へと急ピッチで建設が決まりました。柴田町では、関係地主の強力を得て用地斡旋にあたり、地元の状態を整えて建設促進に協力する一方で、町道新栄通り線、横橋駅前線を新設し、駅前広場の造成をはじめ、新たな市街地づくりの計画を進めました。国鉄丸森線は、その後昭和四十五年に全線が開通(機木〜福島間、五〇・四キロメートル)。柴田町は、仙南の中心工業地帯として大手企業工場の進出が相次いでいた時期で、通勤

工業地帯への通勤労働者の確保と関東経済圏との連携強化などを大いに期待されて開通。

建設予定から一五年。待望の国鉄丸森線が開通。

- 昭和四十三年
- 二月◆船岡小学校前に横断歩道橋が完成/第三次上水道拡張工事に着手。
- 三月◆柴田警察官派出所完成。
- 四月◆国鉄丸森線開通。横橋駅を開設/柴田児童館が開館。
- 五月◆株式会社山崎製パン仙台工場が操業開始。
- 七月◆林道「雨乞線」が完成。
- 十月◆柴田消防庁舎が完成/十二月に交通事故の救急業務を開始。
- 昭和四十四年
- 二月◆船岡中学校新校舎完成。
- 三月◆三名生児童館が開館/第二浄水場が旧第一海軍火薬庫内高久蔵地内に完成。
- 五月◆旧機木公民館が完成。
- 十月◆果実選果場がライスセンター前に完成。
- 十二月◆柴田町観光協会設立/東北電力仙南変電所が富沢地区に完成/炭釜横穴墓群(四日市場)を発掘。
- 昭和四十五年
- 一月◆高齢年金支給制度を施行/NHK大河ドラマ「縦ノ木は残った」が放映開始。
- 三月◆船岡公園の道路・駐車場・観光資料館・リフトカーが完成。
- 四月◆柴田消防署を建設。
- 六月◆柴田町民体育館、柴田町公民館が完成。
- 十月◆西住児童館が開館/「第二回菊人形まつり」が開幕。



昭和42年4月、仙台大学開校

柴田町の出来事

昭和四十一年◎昭和四十五年

【川の記憶】

文/日下龍生

爪跡

明治17年編纂「皇国地誌」の附図。写真は入間野村(槻木)



昭和46年4月、山崎改良住宅が完成



昭和48年4月、勤労青少年ホームがオープン



昭和49年、船迫住宅団地造成に着手



昭和50年12月、船岡平和観音開眼法要

通史 The History of Shibata Town

大らかな流れのなかで

槻木バイパス沿いにあった阿武隈川の洪水の爪跡。山崎製パンの少し上流の大正沼は大正二年の洪水の爪痕。下つて目石三菱のガソリンスタンドの附近には浮沼。昭和三十年代、屎尿処理施設が未整備の時期、この沼に捨てられていた事も、槻木大橋のやや上流に弓ヶ崎沼。明治四十三年に弓ヶ崎決壊の記録があります。バイパスと旧国道四号が交わる所よりやや上流に生次沼。明治の公図にその名が見えますので、藩政時代の洪水跡でしょうか。

Epoch-making...⑦ December 12th, 1973

平間新午郎町長と大沼金治議長によるテープカットで開庁式が始まり、一階ホールにおいて町長の式辞、来賓祝辞などが行われ、簡素ながらも厳粛な式典が行われました。さらに同十五・十六日の両日は、町民に開放して新庁舎見学会が開催されました。

町民のみなさんが利用しやすく、ゆきとどいたサービスをめざして、役場の行政機構も新体制でスタート。

昭和48年

県内でも屈指の設備を誇った役場新庁舎が完成し、昭和48年12月12日、定礎式と開庁式を開催。同15・16の2日間は、多くの町民が見学を訪れた。



これまでの役場船岡庁舎と役場槻木庁舎が、老朽化と手狭で不便をきたしてきたことから、新庁舎の建設が計画され、昭和四十七年十二月から工事が着工されました。新庁舎建設用地は、船岡庁舎前広場七三〇平方メートルで、昭和四十八年十二月十二日に完成。総工費四億三〇〇万円、地上五階、地下一階、建物総面積が四五二六平方メートルの新庁舎は、冷暖房設備、エレベーターを備え、当時、県内でも屈指の設備を誇る庁舎となりました。同十二日、定礎式が行われた後に、

町の新しいシンボル、柴田町役場新庁舎が完成。

Epoch-making...⑧ April, 1974

昭和49年

仙南地域の発展と、町の住宅不足の解消を目指し事業費100億8000万円の巨額を投じて、美しいニュータウンの造成が着手された。



成した船迫住宅団地には、二六〇〇戸(六〇〇〇人)の宅地と上下水道施設はもちろん、公園、教育施設などの公共施設用地のほか、商業用地も確保されました。現在は、モダンな住宅とともに生活関連の商店や施設が建ち並び、快適で美しい街並みを形成しています。

宮 城県の長期総合計画の一端で、仙南地域の発展を推進する「ふるさとづくり」と、急成長する町の住宅不足解消のため、柴田町は県住宅供給公社と共同開発で、住宅団地の建設事業に着手しました。住宅団地計画地には、当時バイパス路線計画などがある発展性の高い地で、しかも優れた住環境をもつ船迫地区が選ばれ、昭和四十五年十一月、土地買収促進委員会を設置。同十二月には、船迫住宅団地造成事業対策地権者会が発足し、翌四十六年から用地買収交渉を開始、二七〇人余の地権者の協力により用地が確保され、昭和四十九年四月、船迫住宅団地造成工事が着工されました。総事業費一〇〇億八〇〇〇万円余の巨費を投じ、着工から五年後の昭和五十四年三月に工事が完了。完

船迫地区に住宅団地造成が着工。

県長期総合計画の一端を担い、魅力ある仙南中核都市をめざす柴田町にふさわしい住宅団地を造成。

- 柴田町の出来事
- 昭和四十六年〇昭和五十年
- 昭和四十六年
- 二月◆柴田町育英会が発足。
- 三月◆入間田中央集会所が完成／船岡中学校体育館が完成／昭和六十年度を目標にした「町勢発展基本構想」が樹立。
- 四月◆社会福祉法人柴田町社会福祉協議会が発足／山崎改良住宅が完成。
- 六月◆小山橋架橋促進期成同盟会が発足。
- 七月◆大河原町との合併問題に伴い、町村合併調査室を設置。
- 十月◆七五歳以上の医療費無料化開始。
- 昭和四十七年
- 二月◆不燃物投棄場を葉坂地区に設置／児童手当制度が発足。
- 三月◆館前生活共同利用センターが完成／共同育苗センターが館前地区に完成／槻木バイパスが開通。
- 四月◆老人憩いの家「羽山荘」が完成／仙南広域消防体制がスタート。
- 十月◆東北新幹線愛宕山トンネルの建設工事に着手。
- 昭和四十八年
- 一月◆森合横穴古墳群(本船迫字森合)を発掘調査／老人、乳児、心身障害児の医療費無料化実施。
- 昭和四十九年
- 四月◆新船岡保育所が開所／勤労青少年ホーム(四保館)が完成／海老穴生活文化センターが完成。
- 六月◆仙南土地開発公社設立。
- 七月◆大干ばつにより水稲に被害輸出。
- 十一月◆太陽の村建設に着手。
- 十二月◆役場新庁舎が完成。
- 昭和五十年
- 四月◆船迫住宅団地の造成に着手／柴田農林高等学校白幡分校が普通課全日制になる。
- 六月◆四日市場生活共同利用センターが完成。
- 八月◆町史編さん委員会設置。
- 十月◆農村総合整備モデル事業に着手。
- 昭和五十一年
- 二月◆槻木コミュニティセンターが開所。
- 八月◆心身障害児施設「むつみ学園」が開園／雇用促進住宅柴田宿舎が根形地区に完成／簡易水道が入間田地区に完成。
- 十月◆地域休日診療制度を三町(大河原町、村田町、柴田町)で実施／町のシンボル決定。町の木「もみ木」町の花「桜」町の鳥「きじ」。
- 十一月◆町制二〇周年記念産業文化展を開催。
- 十二月◆船岡平和観音の開眼法要。

【川の記憶】

文/日下龍生

ふくべ沼のこと

株式会社ヤマプラスの敷地内に、わずかに残る「ふくべ沼」



阿武隈川洪水の爪跡の最大のもののは株式会社ヤマプラスの敷地にあつたふくべ沼で、瓢箪の形をしていました。享保十五年(七三〇)九月十九日の大雨によるものですが、富沢の日下徳太郎翁は堤防決壊は九月三日で小雨すら降つておらず、上流の大雨によるものと書いておられます。沼の水をかいて干してみようと近郷の若者が集まりもう少しのところで槻木に火の手、駆けつけたが火事はなく、引き返すと水は元に戻つていたという話も残されています。



昭和51年4月、町制20周年記念式典を開催



昭和53年5月、新槻木保育所が完成



昭和53年6月、宮城県沖地震発生



昭和54年7月、第1回しばたこどもまつりを開催

通史 The History of Shibata Town

大らかな流れのなかで

- 昭和五十五年
  - 一月 ◆岩手県北上市と姉妹都市を締結。
  - 四月 ◆地籍調査事業に着手/「老人と童の家」が完成/船迫小学校が開校。
  - 八月 ◆船岡地区の新住居表示を使用開始。
  - 十一月 ◆館前住宅団地の分譲開始/町内初の大型小売店「サンコア」が開店/新町、袋町集会所が完成/槻木婦人会創立三〇周年記念式典開催。

Epoch-making...⑨ June 5th, 1977

円余を投じて進められた事業でした。開村の前日に行われた開村式には、町関係者など多数が出席し、水戸繁雄町長の挨拶やテープカットが行われ、開村を祝いました。開村日には約三〇〇〇人が訪れ、晴れ渡った空のもと、四ヘクタールもの広大な芝生の上や敷地内の施設で思い思いに自然を満喫していました。現在は、町のイベント会場にも活用され、多くの人々が自然とふれあう憩いの広場として親しまれています。

開村当日は約3000人が訪れ、4haにおよぶ芝生の上で、思い思いに自然を満喫。

昭和52年

都市部で公害や環境破壊などが問題にされ始めた頃、柴田町にある豊かで美しい自然環境を保全して、農村と都市の交流の場にしたいという願いで建設が進んだ。



自然休養村「太陽の村」が開村。

昭和四十八年十一月から船迫地区内上野山に着工されていた、自然休養村「太陽の村」が、同五十二年六月五日に開村しました。この自然休養村「太陽の村」は、都市での環境破壊や公害問題に関心が高まり始めたこの頃、都市生活者と農村との交流・憩いの場として、柴田町の豊かな自然を提供しながら、農業観光の振興と農家の新しい経営方向を切り開こうという計画のもとで、昭和四十六年より国の指定を受け、総事業費三億八〇〇〇万

Epoch-making...⑩ November 1st, 1980

昭和55年

町の商業振興のために、新しいショッピングセンター設置を計画。商工会青年部の地道な努力と町との協力とで、昭和55年11月、町内初大型小売店「サンコア」が誕生。

町内初の大型小売店「サンコア」が開店。

昭和四十年代後半、郊外型大型店の進出などによる消費者の購買動向の変化に伴い、町では地元商店の活性化の糸口を探るとともに、柴田町の商業振興の施策づくりを急ぎました。その一方で、船迫住宅団地の造成に伴い、新しいショッピングセンターの設置構想がもたらがります。町商業の活性化にと、地元商工会が中心になって、構想実現に向けた協議が重ねられました。店舗移転にかかる多額の資金繰りや後継者の問題などで、なかなか具体化に至りませんでした。しかし商工会青年部の地道な努力と、町当局のたゆまぬバックアップによって、昭和五十五年十一月一日、町内初の大型小売店「サンコア」が誕生。サンコア内には、大型ス



「サンコア」のオープンにより、地元や近隣市町からの顧客が増加し、活気ある商店街づくりがスタートした。



昭和55年、岩手県北上市と姉妹都市締結

- 七月 ◆「第一回しばたこどもまつり」を開催。
- 八月 ◆二本杉、新川原、牛堂地区の新住居表示の使用が開始。
- 七月 ◆「第一回しばたこどもまつり」を開催。
- 七月 ◆町民グラウンドが完成/四代目町長に平野博氏が就任。
- 十一月 ◆槻木中学校のプール完成。
- 昭和五十四年
  - 二月 ◆船岡駅開業五〇周年記念式典を開催。
  - 五月 ◆新船岡母子寮が完成/太陽の村に運動広場がオープン/船岡自衛隊創立三〇周年記念祭を開催。
- 昭和五十三年
  - 二月 ◆柴田町さくららの会発足。
  - 四月 ◆柴田町各種青年団体連絡協議会が発足。
  - 五月 ◆新槻木保育所が槻木小学校跡地に完成/館前住宅団地の造成に着手。
  - 六月 ◆十二日午後五時五分頃に宮城県沖地震が発生、ブロック崩壊などの被害が続出。
  - 七月 ◆町民グラウンドが完成/四代目町長に平野博氏が就任。
  - 十一月 ◆槻木中学校のプール完成。
- 昭和五十四年
  - 二月 ◆船岡駅開業五〇周年記念式典を開催。
  - 五月 ◆新船岡母子寮が完成/太陽の村に運動広場がオープン/船岡自衛隊創立三〇周年記念祭を開催。
- 昭和五十三年
  - 二月 ◆柴田町さくららの会発足。
  - 四月 ◆柴田町各種青年団体連絡協議会が発足。
  - 五月 ◆新槻木保育所が槻木小学校跡地に完成/館前住宅団地の造成に着手。
  - 六月 ◆十二日午後五時五分頃に宮城県沖地震が発生、ブロック崩壊などの被害が続出。
  - 七月 ◆町民グラウンドが完成/四代目町長に平野博氏が就任。
  - 十一月 ◆槻木中学校のプール完成。
- 昭和五十二年
  - 三月 ◆船岡新町下水路が完成。
  - 六月 ◆自然休養村「太陽の村」が上野山に開村。
  - 七月 ◆山田沢第一浄水場わきに汚泥処理施設が完成。
  - 十月 ◆船迫住宅団地の分譲開始。
  - 十二月 ◆柴田ハイパスが一部開通(本船迫字岩の入り立石の二キロメートル)。
- 昭和五十一年
  - 三月 ◆三代目町長に水戸繁雄氏が就任。
  - 四月 ◆町立第一幼稚園が開園/町制二〇周年記念式典を町民体育館で開催(町民歌、町民音頭を発表)。
  - 五月 ◆柴田町が東北一の菊の産地に。
  - 八月 ◆町の住民登録者数が三万人を突破/槻木小学校新校舎が完成。
  - 十月 ◆山下児童公園が完成/冷害で三億円の被害発生/槻木小学校の体育館が完成。

柴田町の出来事 昭和五十一年 昭和五十五年